

SARS-CoV-2 抗体保有者は再感染率低い

NEJM2021 年 1 月 5 日 (火)配信 [呼吸器疾患感染症](#)

英オックスフォード大学病院の[医療従事者](#)計 1 万 2541 人を対象に、[新型コロナウイルス \(SARS-CoV-2\)](#)に対する抗体保有とその後の再感染リスクを検討。調査開始時に参加者の SARS-CoV-2 抗体(スパイク IgG 抗体および抗ヌクレオカプシド IgG 抗体)保有状況を明らかにし、最長 31 週間追跡した。抗体保有状態に基づき [PCR 検査](#)陽性と新規症候[性感染](#)の相対的発生率を推定し、年齢、参加者報告による性別、発生率の経時変化で補正した。

調査開始時、1 万 1364 例が抗スパイク IgG 抗体陰性、1265 例が陽性だった(追跡調査中に陽性転換となった 88 例が重複)。抗体陰性例のうち 223 例が [PCR 検査](#)陽性となり(リスク期間 1 万日当たり 1.09)で、そのうち 100 例は検査時に無症状、残る 123 例が有症状だった。抗体陽性例で 2 例が PCR 検査陽性となり(リスク期間 1 万日当たり 0.13)で、検査時はともに無症状だった(補正後発症率比 0.11、95%CI 0.03-0.44、 $P=0.002$)。調査開始時の抗体保有状況を抗ヌクレオカプシド IgG アッセイ単独で判定した場合と、抗スパイク IgG アッセイを併用した場合の罹患率比は同等だった。